

## 「あいさつ」の輪を広めよう

『耒井人塾』の実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」です。この三つには、私たちの生活の中で大切なものがたくさん詰まっています。今回は「あいさつ」について、H29.10.18(水)河北新報「声の交差点」に載った鈴木のみり子さん(64歳、石巻市・パート)の記事を紹介します。

## 「心温まる児童の挨拶」

「ご苦労さまです」小学生の男の子が、そう言ってくれました。JR石巻駅を清掃作業中のことです。みどりの窓口の床を拭いていたら、小学生の集団が通り過ぎて行きました。「おはようございます」と元気な声がいっぱい聞こえました。そして「ご苦労様です」。それまで「いってらっしゃい」と応えていた私でしたが、その子の声に思わず「ありがとうございます」という言葉が出ました。瞳がきらきら輝いている集団の中でも、特に元気そうなお子さんでした。私は晴れ晴れした気持ちで、その日を過ごせました。駅掃除という仕事をしていると、多くのお客様が通り過ぎていき、いろいろ勉強になります。正直、大人としてのマナーやルールが守られない場面にも、日に数回出会うことがあります。その時には「ここをきれいにするために、私の仕事があるんだ」と自分に言い聞かせながら作業を続けています。そんな気持ちを温めてくれた言葉が「ご苦労様です」でした。小学生のひと言に「さあ頑張るぞ」と、力いっぱいモップで床を拭き始めました。

鈴木さんの喜びの笑顔と元気いっぱいモップをかけている姿が想像されます。鈴木さんの心に温かい灯を点したのは、小学生の感謝と思いやりのあいさつです。あいさつの一言が人を喜ばせ、元気にしてくれるのですね。

そこで、今回は「あいさつ」について考えてみたいと思います。漢字では「挨拶」と書きますが、「挨」も「拶」も常用漢字には含まれていませんので、『耒井人塾』では「あいさつ」と書いています。「挨」も「拶」も「押す、進む、拓く」という意味があり、昔は強引に前に進むという意味でしたが、江戸時代のころから仏教的押し問答に使われ、「言葉を親しく交わす」という意味に変わってきました。現代ではコミュニケーションの最も大切な一つであるといわれています。日常使われるものとして「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「ありがとうございます」「お願いします」「ごめんなさい」「お疲れ様でした」などがありますが、大切なのは相手のことを思ってあいさつすることだと思います。また、あいさつするときの大切な点として、話しているときの目線、表情、声の大きさ、声の柔らかさ、言葉遣い、姿などがあげられます。鈴木さんが子どもたちに力をもらったのは、これらのことが全て一緒になって鈴木さんの心に届いたのだと思います。私も学生に自分からあいさつするようにしていますが、笑顔であいさつを返してもらえると何となく心が温かくなります。『耒井人塾』塾生の力で、あいさつの輪を石巻地域に広め、「世界に誇れる石巻地域」にしていきたいですね。



## 羽生結弦の姿から学ぶこと

先日のテレビで、羽生結弦がインタビュー後に必ず行うことは何かというクイズ番組がありました。答えは「乱れた椅子や机、マイクや名札をきちんと直してから退場すること」でした。どうしてそうするのですか？という質問に「ごちゃごちゃしたまま帰ったら日本人として恥ずかしいじゃないですか。」と答えていました。さらりと答える爽やかさに、かっこいいなと思いました。そういえば、フィギュアスケートの大会で演技が終了してリンクから退場するとき、必ず一礼する姿に感心していました。誰かに見ていられようがまいが、淡々と自分の信念を貫く姿に凜とした清々しさを感じます。私はゴミを拾うときなど、人に見られていると恥ずかしい気持ちになりますが、まだまだ修行が足りないですね。